

大船渡湾水環境保全推進協議会 議事録

1 開催日時及び場所

- (1) 日時 平成 30 年 7 月 6 日 (金) 午後 2 時から午後 3 時 40 分
- (2) 場所 大船渡市役所 地階大会議室

2 委員の現在数 25 名

3 出席者

- (1) 委員 19 名

伊藤裕哉 (代理：菊池傑) [国土交通省東北地方整備局釜石港湾事務所]
小川修 [沿岸広域振興局保健福祉環境部大船渡保健福祉環境センター]
乙部智明 [沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター]
神康俊 (代理：山本裕) [沿岸広域振興局大船渡水産振興センター]
漆原隆一 [沿岸広域振興局大船渡農林振興センター]
佐々木利昭 [大船渡市公衆衛生組合連合会]
米田千賀子 [大船渡市各種女性団体連絡協議会]
佐藤優子 [大船渡市地域婦人団体連絡協議会]
伊藤陽 [盛川漁業協同組合]
新沼邦夫 [大船渡商工会議所]
新沼恵美子 [特定非営利活動法人おおふなと市民活動センター]
新沼孝子 [特定非営利活動法人夢ネット大船渡]
渡部豊美 [特定非営利活動法人みなとみらい・三陸]
新沼玲子 [大船渡市農業委員会]
新沼眞作 [末崎地区まちづくり推進員]
金野律夫 [赤崎地区まちづくり推進員]
志田安雄 [蛸ノ浦地区まちづくり推進員]
菅野勝嘉 [猪川地区まちづくり推進員]
新沼良治 [立根地区まちづくり推進員]

- (2) 事務局 16 名

大船渡市

生活福祉部長 後藤俊一
市民環境課長 安田由紀男、同課 課長補佐 鈴木康代、同課 係長 松村千佳子
同課 主任 村上暢啓、同課 主事 田中瑛大
企業立地港湾課 係長 大和田智
農林課 課長補佐 平山求
水産課長 今野勝則
下水道事業所長 佐々木毅

岩手県

大船渡保健福祉環境センター 環境衛生課長 川村良孝、同課 技師 阿部志保美

日鉄住金環境(株)

分析ソリューション事業本部 釜石センター長 堀江亮平

同センター 技術士 中馬慶子、同センター 営業室 大瀧行道

建設事業本部建設技術部 部長 青木延浩

4 議事の経過（要旨）

【委員紹介】

新しい任期に入ってから始めての会議であることから、全員を安田課長から紹介。

【職員紹介】

当日配布した職員名簿の配布をもって紹介に替える。

【成立要件報告】

松村係長から委員 25 名中 19 名出席であり、委員の半数以上の出席があることから成立する旨を報告。

【会長及び副会長の選出】

松村係長から、設置要綱第 4 基づき会長及び副会長を各 1 名、委員の中から互選する旨を説明し、選出方法について意見を求めた。

事務局案の提案を求める発言があったことから、次のとおり事務局案を提案。

会 長 大船渡商工会議所 専務理事 新沼邦夫

副会長 大船渡市公衆衛生組合連合会 理事 佐々木利昭

事務局案のとおり決定。

【報告】

(1) 平成 29 年度大船渡湾水環境保全計画実績報告について

(2) 平成 29 年度環境関連調査結果等について

(3) 重点施策の 29 年度取組実績について

- 質疑応答 -

[米田委員]

資料 4 の 31 ページ「平成 29 年度取組実績の結果」の (1) の④について、排水基準を超えた事業所が 2 件あったとあるが、指導後、改善されているか。

[県環境衛生課：阿部技師]

1 件は改善を確認しているが、もう 1 件は継続指導中である。

[米田議員]

同じく⑤の盛川のヨシ焼きについて、平成 30 年度の実施計画から削除となっているが、今後やらない方向で進めていくということなのか。

[県環境衛生課：阿部技師]

実施主体が大船渡土木センターなので、確認の上、改めて報告させていただく。

[新沼委員]

資料 2 - 1 の 17 ページに記載の目標と課題の 2 つ目に“河川を通じた流域からの流入負荷の把握に努め”とあり、これは家庭内排水が関係していると思う。立根町は公共下水道がまだ普及していないが、市の公共下水道の普及状況を教えてほしい。

〔市下水道事業所：佐々木所長〕

公共下水道の普及率については、処理別普及率が平成30年3月31日現在で62.3%である。立根町については、計画が平成32年度となっており、現在は猪川町の前田、富岡及び中井沢で管渠の工事を行っているが、今後具体的な計画を立て、立根町までの基幹管路の設置を進めていく予定である。また、浄化槽との関連もあるため、その辺は下水道事業所に相談してほしい。

〔新沼委員〕

私は立根町でピーマンを栽培していて、立根川から農業用水を引いており、その上流で家庭内排水が川に流れてくるため、朝食や洗濯が終わる時間を見計らって河川からポンプアップしている。同地区で農業を行っているのは私だけではないと思うので、(公共下水道の早期整備について) よろしくお願ひしたい。

〔志田委員〕

湾口防波堤の通水管の効果について、当初期待されたものようでもない。海水交換については震災前と比較できると思うが、どのような施策として進めていくのか。

〔市民環境課：安田課長〕

湾口防波堤は平成28年度に復旧工事が終了し、完成後の説明会において、外海との海水交換のため通水管を設置したこと等について報告を受けている。震災以前は湾内海水が停滞傾向であったが、通水管によって大幅な解消が図られたことから、外海との交流が活発に行われるようになったと感じている。震災時の津波によって外海との大規模な交流が自然現象としてあったわけだが、確かに平成23年度と24年度については水質が改善された状態になっており、外海との海水交換についても高い数値を示していたようだ。閉鎖性水域である大船渡湾に湾口防波堤が完成したことによって外海との交流が悪くなるのは当然のことではあるものの、市民の安全を守ることを優先し、国等の施策として実施したものである。その結果として、湾水質が震災前の状況に戻りつつあるとの報告は先ほどのとおりである。今後の対応については、地道な方法ではあるが、家庭排水や事業系排水、農業排水への対応策を継続して取り組んでいかなければならないと考えている。

〔志田委員〕

現状はお互いに共通認識だと思うが、漁業系廃棄物や農業系廃棄物のような分野ごとの施策は示されているのか。例えば漁業系廃棄物への指導はどのような方法なのかを聞きたい。また、水資源のかん養について、20年ほど前に盛川の漁業者が日頃市町大森地域の市の山林に植栽を行ったと記憶しているが、現状を把握されているか。その後、植林事業が継続されていないように感じている。

〔市民環境課：安田課長〕

植林については気仙地区の各市町の農林担当部署が行っている。また、湾水質の環境保全については、市としても大船渡湾水環境保全計画に基づいた担当事業の進捗等について全庁的な会議等を持ちながら連携して取り組んでいるのでご理解いただきたい。

〔農林課：平山課長補佐〕

植林については、毎年植林は行っているが、植林の場所は三陸町に偏っている状況である。

それは三陸町に市有地を多く所有しているため、現状は三陸町方面に植林する傾向となっている。大森地域への植栽については、担当職員が市内全域を毎日巡回しており、適正に管理している。

〔山本委員代理〕

漁業系廃棄物について、県としては実際のところ環境負荷の軽減といった側面での事業を持ち合わせていない。対応としては漁業系廃棄物を不法投棄しないよう指導しているが、志田委員がご指摘のとおり大船渡湾の環境という大きなテーマを考えると、現時点ではそれぞれの取組みにうまくリンクしていないと感じたところである。したがって、それぞれの取組みが大船渡湾の環境負荷に対してどのように負荷を軽減させていくかという点は非常に難しいテーマだと思うが、そこまで考えていかないと日鉄住金環境の調査結果をどのように生かすかということにつながっていかないような気がする。

〔菊池委員代理〕

湾口防波堤については、おかげさまで平成29年3月に無事完成することができた。これもひとえに皆さまのご支援・ご協力のおかげだと思っている。今回湾口防波堤を復旧する際、直径3.5mの通水管をマウントの下に18本設置している。また、復旧工事を行いながら、環境調査も並行して実施しており、環境に配慮しながら施工してきたところである。日鉄住金環境の資料7ページ、溶存酸素量の縦断面分布の右下の辺りが震災前よりかなり改善された結果になっていると考えている。湾口防波堤の完成後、環境調査自体は外部委託等では実施していないが、国としても県や市の環境関連調査のデータを集めながら通水管の効果を今後も継続的に確認していきたい。

〔水産課：今野課長〕

資料1の3ページだが、市として湾環境に直接的な効果がある事業として干潟造成事業を進めている。震災前にあった干潟が全て地盤沈下で消滅してしまったということもあり、現在、湾内9箇所を整備する計画で順次進めている。昨年度までで7箇所の整備を終えており、今年度は珊瑚島付近と末崎地区の2箇所で来年度にかけて整備を進めたいと考えている。基本的にはアサリの漁場ではあるが、水質浄化作用としての側面からも進めているところである。環境への効果を詳しく把握していないが、アサリの生息調査等は実施しているし、また、大学からの支援をいただいて効果を検証しながら整備を進めていきたい。

〔志田委員〕

プラスチックごみが相当量大船渡湾に流れ込んできており、そのごみが外洋に出て、微細な粒子となって魚介類が取り込んでしまうことを危惧している。市としてプラスチックごみによる環境汚染についてどのように取り組もうと考えているか。

〔市民環境課：安田課長〕

プラスチックごみの一番の原因は不法投棄されたペットボトルやビニール袋等であり、そのごみが川を通じて海洋に流れ出て、日光によって微細化されてマイクロプラスチックとして生物に吸収されるということだと思う。それ以外にも衣類の洗濯から微小なプラスチック類が排出されるということで、原因も多種多様のようなのである。市としては不法投棄を防止しながら、特にプラスチック類については、再利用ごみとして市内の半分の世帯を対象に収

集しており、その取組み等を強化していきたいと考えている。

〔志田委員〕

具体的に聞くが、マイバッグ運動を市としてテコ入れをするといった考えがあるのか。また、湾内に流入したごみが、各地区の湾に集積している実態を市として掴んだことがあるのか。それを一つの市民運動として市民の共通認識となるようやらなければならないと思うし、大船渡市からやっていくという気構えが必要だと考えるがどうか。

〔安田市民環境課長〕

プラスチックごみは難しい問題だと認識しており、本市としてはマイバッグ推進キャンペーンを実施してはいるが、レジ袋自体をなくそうという段階までは至っていない。市内で発生するプラスチック類のごみについては、市内で可能な限り処分していく取組みを行っているので、その事業を拡大・普及させていく方向で取り組んでいきたいと考えている。

【協議】

- (1) 平成 30 年度大船渡湾水環境保全計画実施計画について
- (2) 重点施策の 30 年度実施計画について

- 質疑 -

特になし